



## ●●●●●●●●●● **健康セミナーを実施して** ●●●●●●●●●●

山梨県都留市消防団

### 1 はじめに

都留市は、山梨県の東部に位置し、昭和29年4月29日に谷村町、東桂村、禾生村、宝村、盛里村の5町村が合併し誕生しました。

当市は、日本“新・花の百名山”に選ばれた三ツ峠山、二十六夜山など、それぞれ個性ある山々に囲まれた、豊かな緑と清らかな水の溢れる、素晴らしい自然環境に恵まれた城下町の面影を残す小都市で、古くから「甲斐絹」に代表される織物を中心にした産業が発展し、また、俳聖 松尾芭蕉が本市に滞在し多くの名句を詠み、蕉風俳句の開眼を果たした地とも伝えられております。

現在は、夢の交通機関「リニアモーターカー実験線」の拠点基地があることで知られるとともに、人口3万5千人規模の都市では全国唯一と言える公立大学法人都留文科大学を擁し、全国各地から多くの学生が集い研鑽に励む、学術と文化、芸術が融合した知的風土を醸し出すまちでもあります。

当市では、地球温暖化対策の一環として、「人・まち・自然にやさしいグリーンアクションつる」を掲げ、家中川小水力発電所「元気くん1号」を設置しました。「元気くん1号」は最大で20kwを発電する能力を有する直径6mの開放

型木製下掛け水車で、市役所庁舎前を流れる家中川に設置されています。平成23年3月下旬には「元気くん1号」に続き「三の丸発電所跡」に、直径3mの開放型木製上掛け水車「元気くん2号」を新設し、どちらも元気に稼動中です。

### 2 都留市消防団の概要

都留市消防団は、昭和29年4月に1町4村の町村合併により、都留市が誕生すると同時に5つの消防団を統合し5分団1,455名で発足しました。その後、昭和33年に再編成がされ、昭和47年から3ヵ年計画で消防団の合理化が図られ、昭和49年に6分団47部675名の条例定数となり現在に至っています。

全国的に消防団員数が減少し、多くの市町村が団員の確保に苦勞している中で、当市消防団は、地域住民のご理解と団幹部の努力により、県内では条例定数を満たしている数少ない消防団の一つです。

当市消防団は、ポンプ自動車14台、小型ポンプ付積載車33台を配備し、日夜、市民を災害から守る活動に従事しています。

また、山梨県消防操法大会において、東部支部の代表として、平成21年度にはポンプ車操法の部に、平成22年度には小型ポンプ操法の部に

出場し、惜しくも優勝は逃したものの2年連続での準優勝と、団長を中心に積極的で活気のある消防団です。

### 3 健康セミナー開催に至った経緯

当市消防団では、毎年10月に消防団員研修会を開催しています。内容は県消防防災課職員を講師に招いての防災講演会と警察職員を講師に招いての安全運転講習会で交互に開催していましたが、平成21年度の幹部会議で「今年は消防団活動をする上での、安全管理を主眼とする研修会を開催しては」との意見が出されました。

幹部会議での意見を受け、研修開催について検討していたところ、『広報消防基金』の掲載記事によって、三つの公務災害防止研修の存在を知り、その中から「安全管理セミナー」を開催しました。研修後には、多くの団員から「公

務災害防止のために大変参考になった。」との感想が寄せられ、同時に団幹部から「来年は自分達の健康管理についての研修会を」との意見がありました。

地域を守る消防団員として活動するためには、日常から自分の健康面を注意していくことは大切なことであり、特に生活習慣病に対する予防対策が重要だと考え、平成22年度には、前年度に引続き消防基金の協力を得て「健康セミナー」を開催することになりました。

### 4 健康セミナーを開催して

平成22年10月29日（金）山梨赤十字病院の赤十字健康生活支援講習指導員の岡本理恵様を講師に迎え、「生活習慣病予防」をテーマとして、消防団員・職員合わせ250名が参加して開催いたしました。



団長挨拶



講演の様子

今回の研修では、糖尿病・心臓病・脳卒中・高血圧・脂質異常・肥満について分かりやすく説明をしていただき、不適切な食生活、運動不足、喫煙などの生活習慣の積重ねがメタボリックシンドロームを招くということが理解できま

した。「日頃から食事や運動など生活習慣の改善が必要だ」と多くの団員が研修後のアンケートで回答していました。また、生活習慣病以外にも、うつ病について分かりやすく説明していただきました。



研修会場の様子 1

## 5 今後の取組み

以前から、当市消防団では活動時の安全管理に対して常々指導をしていましたが、「安全管理セミナー」を開催してからは、団員個々の意識が更に高くなっています。また、今回「健康セミナー」を受講したことで、個々の団員が自らの健康管理を徹底してくれることに期待を

しています。

今後は定期的に「安全管理セミナー」と「健康セミナー」を消防基金の協力を頂き開催していきたいと思っています。

公務災害を無くし、市民の安全と安心を守る消防団員が、より活動しやすい環境作りのための取組みを進めていきます。



研修会場の様子 2